

常設展示室 企画展

市民からのおくりもの 2015

—平成25・26年度新収蔵品から—



“写す”の実験室へ、ようこそ。

特別展

浮世絵から写真へ

— 視覚の文明開化 —



凌雲閣百美人 小とよ
写真(鶏卵紙に着色)
小川一眞 1891年(明治24)
資料番号:88995190

ここが
POINT

浮世絵と写真に
写された100人の
美女たち



江戸名所百人美女 両国はし
錦絵
歌川国貞(3代豊国)・2代歌川国久 1857年(安政4)
展示期間:10/10(土)~11/8(日)
資料番号:91220136

浮世絵

特別展

写真

視覚の
文明開化
から



開化旧弊興廢くらべ 錦絵3枚続 歌川芳藤 1882年(明治15) 資料番号:94202801~03

絵や写真に写しだされる
日本文化の近代化

絵を描くことは古今東西古くから行われ、長い歴史があることは言うまでもありません。しかし、19世紀になると写真が登場します。絵も写真も「写す」ものであることに変わりなく、ここに様々なドラマが生まれてきます。今回の展覧会では、日本に写真が広まっていた頃、つまり幕末から明治にかけての絵と写真に着目しました。この二つをあわせみることによって、日本文化の近代化の一面を明らかにしたいと思います。

まず「プロローグ」では、名所や風俗を描いた屏風を展示し、江戸時代の人々が絵に写して鑑賞した世界をご覧いただきます。続いて「第1章 日本の絵と渡来した写真 ― 二つの世界 ―」では、浮世絵を中心とする江戸時代の絵と、日本に入ってきた写真を、それぞれのコーナーに分けてご覧いただきます。絵については、風景と人物を中心に揃えます。写真については、初期の頃に活躍した著名な写真師を選び、写真史の流れに沿って作品を展示します。

さまざまな「写し」の文化が融合した不可思議な世界

「第2章 絵と写真の出会い」は、いよいよ写真が入ってきた後の、様々

information

特別展「浮世絵から写真へ
— 視覚の文明開化 —」

会期 10月10日(土)~12月6日(日)

休館日 毎週月曜日
(月曜日が祝日または振替休日の場合は翌日)

開館時間 9:30~17:30
(土曜日は19:30まで)

※入館は閉館の30分前まで
※会期中、展示替えがあります。

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展 常設展共通券
一般	1,350円 (1,080円)	1,560円 (1,240円)
大学生 専門学校生	1,080円 (860円)	1,240円 (990円)
中学生(都外) 高校生・65歳以上	680円 (540円)	780円 (620円)
小学生 中学生(都内)	680円 (540円)	なし

※()内は、20名以上の団体料金。
※小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展観覧料が無料のため、共通券はありません。
※次の場合は、観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館、読売新聞社

チケット販売 東京都江戸東京博物館のみで販売

特別展関連講座

①「浮世絵と写真
いとこ取りの面白さ」

11月20日(金)
我妻直美(当館学芸員)

②「写真?それとも油絵?
幻の技法“写真油絵”」

11月27日(金)
岡塚章子(当館学芸員)

※時間はいずれも14:00~15:30
※往復はかきによる事前申込制となります。応募方法や受講料など詳細は、当館ホームページおよび館内配布のチラシなどでご確認ください。

次回特別展予告

特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ
天才の挑戦」

会期 2016年1月16日(土)~4月10日(日)

レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452~1519)は、イタリアのヴィンチ村で生まれ、多くの画家に影響を与えました。解剖学・地質学・水力学などに関心を示し、絵画や彫刻だけでなく、音楽家・軍事技師・建築家として活躍したことも有名です。その研究や思想を膨大な数の素描や手稿として残しました。本展では、円熟期の油彩画《糸巻きの聖母》、直筆ノート『鳥の飛翔に関する手稿』といった日本初公開の貴重な資料を中心に、天才の挑戦を体系的に紹介します。



レオナルド・ダ・ヴィンチ《糸巻きの聖母》
1501年頃、油彩・板、48.3cm×36.8cm、
バクラー・リビング・ヘリテージ・トラスト
©The Buccleuch Living Heritage Trust

な作品を紹介し、揃いの美人画として量産された錦絵「江戸名所百人美女」と、同じ発想で作られた写真「凌雲閣百美人」。まるで写真のようにリアルな容貌を持つ錦絵や、肉筆の人物画「和装西洋男女図」。絵と写真が入り乱れた世界が展開します。そして「**第3章 泥絵・ガラス絵・写真油絵 — 時代が生んだ不思議なモノ —**」では、まず江戸時代から関心を持たれていた、油絵などの舶来画の影響を受けた作品を取り上げます。その後、驚くべき繊細な技術によって生まれた作品群を紹介します。たとえば、ガラスの裏から絵具を塗り重ねると同時に、写真を貼り込んだ写真貼付ガラス絵「富士山風景図」。写真の裏面の紙を薄く削り取り、裏から油絵具で彩色した写真油絵「初代東京府知事 烏丸光徳」。絵や写真の枠を超えて、工芸品のように作り込まれた作品の数々をお楽しみいただきます。

ここが POINT
日本画の中に描かれた写真のような顔を持つ西洋の男女



和装西洋男女図
絹本着色
19世紀末~20世紀初頭(明治前期)
資料番号:90362501・90364182



ところで、国技館の高い所にずらりと飾られた大相撲の優勝額が、2013年(平成25)まで、モノクロ写真に油絵具で着色したものだったことはご存知でしょうか。まさに現代における絵と写真の出会いです。最後の「**エピソード**」では、横綱・白鵬関の巨大な優勝額とともに、江戸時代から明治にかけて制作された相撲錦絵と写真を展示します。両国に建つ当館らしく、

国技の歴史にも
錦絵と写真が同居する

相撲をテーマに本展を振り返っていたら、幸いでした。一緒に考えたいテーマかもしれませんが、この二つは歴史の二期、紛れもなく同時に存在しました。いち早く新しいものを取り入れた絵師の欲望、写真に対する人々の強烈な好奇心、渦巻くような思いから、その当時、様々な表現や技術が試されました。本展は、その実験室から生まれたものを集めた展覧会とも言えます。ぜひ、気軽に楽しくご覧ください。

(学芸員 我妻直美)

ここが POINT
特許を取得した技法、写真油絵による作品

初代東京府知事 烏丸光徳
写真油絵
小豆澤亮一 1888年(明治21)
東京都公文書館蔵

ここが POINT
人物の姿や舟に、切り抜き写真を利用したガラス絵



富士山風景図 写真貼付ガラス絵 19世紀末~20世紀初頭(明治期) 個人蔵

常設展示室がパワーアップして新装開展!!

えどはく 第2回 解体新書

江戸ゾーン

常設展示室の江戸ゾーンでは、江戸の歴史や文化に関する様々な資料や体験型模型を展示しています。



常設展示室には展示資料以外にも、重さや質感を再現して作られた体験型模型もあります。当時の文化を実際に触れて感じてみてください。



江戸東京博物館
公式キャラクター ギボちゃん



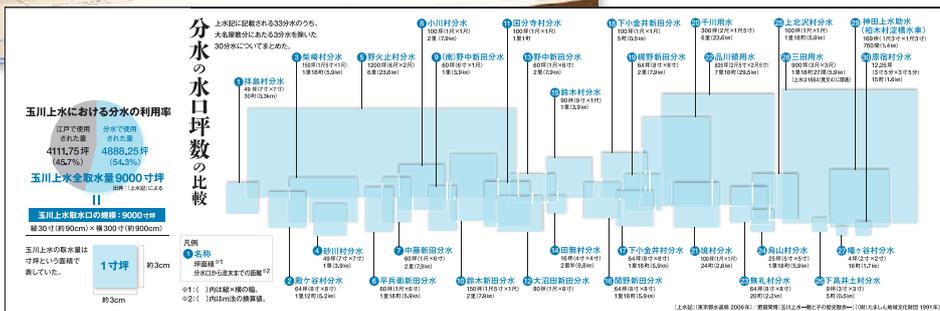
見る・触れる・乗る 江戸をまるごと体感!



蕎麦屋の屋台



玉川上水の分水模型では、上流から下流へと流れゆく様子を視覚的に確かめることができる。



博物館に展示している資料を見ただけでは、どのくらい重いのか、どんな触り心地なのか、わからない、という話をよく耳にします。確かに、実際に触れることによって重量や質感を感じることはとても重要なことですが、保存の問題を考えると、直接触れていたいくことは難しくもあります。そこで、実際の資料と同じような重さや質感で作られたものが体験型模型です。

今回のリニューアルにあたり、常設展示室では体験型模型の一層の充実を図りました。「江戸の商業」のコーナーでは、江戸の食と経済の関係を知っていただくために、寿司屋の屋台、蕎麦屋の屋台、棒手振という魚や野菜を売り歩く行商人の商売道具の模型が並んでいます。ここでは当時の屋台の大きさや商売の道具などを見たり、売り物を担いでみたりすることで、江戸時代の商売の雰囲気を感じることが出来ます。

また、実際に動かすことによって、展示している内容を理解していただけるような体験型模型もあります。「江戸と結ぶ村と島」のコーナーでは、羽村から取り入れた玉川上水の水が、途中の村々へ分水をした結果、江戸まで達する水の量がどれくらいになるのかわかるような模型を作りました。また「江戸の美」のコーナーでは、江戸時代に流行した色と文様を組み合わせることで、着物の柄がわかるような模型を新設しています。

リニューアル前からの体験型模型も、もちろん健在です。間近で見ると、触れる・乗るなどの五感を通した「江戸まるごと体感」をお楽しみください。

(学芸員 真下 祥幸)

江戸東京の文化を楽しもう!



常設展示室

企画展

場所

5F 企画展示室



京浜地方修学旅行日記
1915年(大正4)
資料番号:13200226~0227

江戸東京の文化の特徴を感じることが出来る美術品をはじめ、歴史を語る古文書や図面類・刷物などの文献資料、身近な生活用品にいたるまで、バラエティー豊かな江戸博コレクションの世界をお楽しみください。

企画展「市民からのおくりもの」は、当館が新たに収蔵した資料を、みなさまにご覧いただく展覧会です。今回は、2013〜14年度の2年にわたってご紹介した資料の中から、一部を厳選してご紹介いたします。

当館では、江戸東京の歴史と文化に関する資料を収集し、それらをもとに調査研究を行い、その成果を展示などで公開しています。

10月20日(火)〜12月6日(日)

市民からのおくりもの
2015
平成25・26年度新収蔵品から

図書室臨時休室のお知らせ

図書室では、蔵書点検のため毎年休室期間を設けておりますが、今年は下記の日程で休室いたします。皆様にはご不便をおかけいたしますが、なにとぞご了承ください。

12月15日(火)〜12月20日(日)

※なお12月21日(月)からメンテナンスのため全館休館に入りますので、図書室の年内最終開室は12月13日(日)になります。

ください。

今回の特別展「浮世絵から写真へー視覚の文明開化」では、東京都写真美術館の司書と協力し、特別展をより楽しめる特集コーナーを作りました。例えば、幕末の写真技法だけでなく技術発達の変遷も記された『写真鏡図説』(タグロン 原著、柳河春三 訳述 1867年刊)や、化学専門書『舎密局必携』(上野彦馬 抄訳 1862年刊)の附録で湿板写真術を解説した「撮形術ポトガラヒー」など、会場で展示されている原本では読むことが難しい資料も、復刻本や現代語訳を図書室で読むことができます。ぜひ手に取って、じっくりご覧ください。

図書室から
LIVE REPORT

本で見る
写真の世界

図書室では特別展開催のたびに関係図書を集め、特集コーナーを設けています。

江戸東京博物館 年末年始の開館について

年末年始の開館は次の通りです。
みなさまのご来館をお待ちしております。

12月21日(月)〜1月1日(金)……臨時・年末年始休館

1月 2日(土)〜1月4日(月)……正月特別開館

1月 5日(火)……臨時休館

正月特別開館のお知らせ

開館時間:いずれも9:30〜17:30

新春イベント

「夢からくり」「獅子舞」「箏の演奏」

「ギボちゃん登場」があります!

※2〜3日の2日間は常設展示観覧料が無料です!

詳細は、次号またはホームページをご覧ください

年始から
イベント
盛りだくさん!



どこから来たの? どこが魅力?

江戸東京博物館に来てくださった外国人の方に突撃!!

Q1 出身地は? Q2 どうして江戸博へ? Q3 館内のどこが気になった?



from
Taiwan
ケンヨウ
健洋さん

- A1 台湾
- A2 インターネットで調べて
- A3 ダルマ自転車の体験模型

日本に来て8か月、これまで2回ほど江戸東京博物館に来たことがありますが、今日は台湾から遊びに来た家族と一緒に来ました。江戸から現代までの文化・歴史がまとめて展示されているところがとても興味深いですね。滞在中の経験を糧に、台湾でグラフィックデザインの仕事を予定しています。



from
England
ジェナさん
ロイスさん

- A1 イギリス
- A2 ロイスの案内で
- A3 東京大空襲の展示
- A1 イギリス
- A2 地下鉄で広告を見て
- A3 「助六」の舞台模型

【写真左・ジェナさん】日本に住む友人のロイスの案内で江戸東京博物館に来ました。歌舞伎を見たことがないので、15分ごとに動く復元模型はとても面白かったです! 歌舞伎座で実物も見てみたいと思いました。

【写真右・ロイスさん】日本に住むようになって5か月、英語の教師をしています。東京が受けた戦争の歴史についてはほとんど知らなかったため、今日は展示を見てとても勉強になりました。

凌雲閣から眺めた

浅草六区の変遷

都市歴史研究室 学芸員
沓沢 博行・文

1 873年(明治6)に出された太政官布告によって、浅草は公園地に指定され、浅草寺の寺領から七つに区画された「浅草公園」へと整備された。1884年(明治17)には浅草奥山に展開していた見世物小屋などが、新たに造成された第六区へと移転を命ぜられる。造成の際の盛土を掘ったあとには大池(ひょうたん池)が生まれ、それを囲むように興行街としての「浅草六区」が形成された。

ここで紹介する3枚の写真は、時代は異なるがいずれも、1890年(明治23)に建てられた高塔、凌雲閣(浅草十二階)の上から、六区の景観を写したものである。

1枚目は、外国人向けのお土産として撮影されたと思われる写真で、当館には映写に用いる幻燈原板に加工した形で収蔵されている。(1)写された1890年代頃と思われる六区は、まだ大きな建物は少なく、立ち並ぶ家々も純和風の平屋建てが多いように見受けられる。この頃は小芝居や玉乗り、パノラマ館などが人気を集めていた。

2枚目は、それから十数年を経た1909年(明治42)頃に撮影されたもの。(2)画面

右上には、1903年(明治36)に日本初の活動写真常設館として開館した電気館が写る。この時期の六区には電気館を皮切りに次々と活動写真館が開業し、より多くの人々が新たな娯楽を求めて訪れるようになっていた。画面左上には洋風に新築された浅草区役所も確認できる。周辺の家々も二階建て以上が多くなり、道沿いには電柱も立ち並んで、人々の暮らしの変化を感じさせる。

3枚目は、1921年(大正10)頃に撮影されたもの。(3)画面右のメインストリートには、以前よりもさらに凝った洋風建築の活動写真館が立ち並ぶようになり、道路自体もきれいに整備された。この頃の六区では、活動写真のほか浅草オペラや安来節などが人気で、庶民向け娯楽の集まる地として大いに賑わいを見せた。

明治から大正期の、こうした街の変化が俯瞰できる写真が残っている例は極めて少ないだろう。凌雲閣という高塔があつたがゆえに写され、残された貴重な記録である。



2



1



3

1 幻燈原板「浅草より東京を望む」
明治20年代後半
資料番号:99750500

2 写真絵葉書「凌雲閣より
浅草公園および蔵前方面を望む」
1909年(明治42)頃
資料番号:88132882

3 写真絵葉書「浅草公園六区の盛観」
(大東京絵葉書コレクションアルバムより)
1921年(大正10)頃
資料番号:85200883

TOPICS

日中博物館

国際シンポジウムを開催します！

10月28日(水)【場所】映像ホール

当館では、中国北京の首都博物館、韓国のソウル歴史博物館と、2002年(平成14)から13年間にわたり、毎年持ち回りのシンポジウムを開催し、首都における歴史博物館の活動について意見・情報交換を行い、交流を深めてきました。2006年(平成18)には、中国・瀋陽故宮博物院も加わり、現在は3か国4館の間でシンポジウムを続けています。

第14回目となる今年度は、日本の当館が主催し、各館の館長や学芸員をお招きし、10月28日(水)に開催します。「都市の祭典と博物館」「都市博物館同士のネットワーク」「持続する社会と博物館」という3つの小テーマを定め、それぞれの館の現状と課題について発表と討議を行います。詳細につきましては、当館ホームページなどでお知らせいたします。また、当日の議論の内容は、次号の江戸博ニュースに掲載します。

当館では、今後とも各館との交流をさらに深め、共同展覧会などの協議を進めていく予定です。多様な博物館活動に今後ともご期待ください。



瀋陽故宮博物院



ソウル歴史博物館



首都博物館

江戸東京たてももの園

— 秋から冬のおもな催し —

江戸東京博物館分館

江戸東京たてももの園から



「体験！発見！職人さん」

10月10日(土)・11日(日)

東京の技を守る伝統工芸士が集合！実演のほか、実際に体験できる2日間です。

「江戸東京たてももの園セミナー 移築を考える」

11月5日(木)・19日(木)・26日(木)

木造建造物の移築をテーマに、前川國男邸、デ・ラランデ邸の2つの復元工事をご紹介します。

※会場/
江戸東京博物館1Fホール

詳しくは、江戸東京博物館HP「えどはくカルチャー」をご参照ください



デ・ラランデ邸

「夜間特別開園 紅葉とたてもものライトアップ」

11月21日(土)~23日(月・祝)

美しくライトアップされた建物と紅葉。今年度は文化財として指定された前川國男邸・吉野家・天明家・奄美の高倉に焦点をあててライトアップします。



天明家



前川國男邸

「江戸東京たてももの園 正月臨時開園」

2016年1月2日(土)~3日(日)

来年もお正月の臨時開園をいたします。すがすがしい新年の香りのたてももの園へぜひどうぞ！

※詳しくは江戸東京たてももの園HPをご覧ください。

江戸東京たてももの園

〒184-0005 小金井市桜町3-7-1(都立小金井公園内)
TEL 042-388-3300(代表) <http://www.tatemonoen.jp>



黒雲竜五郎(1817~1871)と要石周太(1808~1858頃)の取組
歌川豊国(3代)1843~47

天保14年~弘化4年出版。黒雲は熊本県玉名市出身、最高位前頭3枚目。要石は滋賀県長浜市出身、最高位前頭3枚目。



戸田川鷺之助(不詳~1773)
使用の化粧廻し
現存する化粧廻しでは最古といわれる。元禄年間には華やかな図柄の廻しが登場した。

1954年(昭和29)9月、蔵前国技館に開館した「相撲博物館」。1985年(昭和60)の国技館の移転に伴い両国の地に根を下ろしてから、今年でちょうど30年。初代館長の酒井忠正氏が長きにわたり収集してきた資料・作品を基礎とした約3万点のコレクションの中から、年に6回の企画展示がなされています。人気の高い絵師による錦絵や、なかなか目にする事のない化粧廻しなどから、今なお刻まれる国技の足跡をたどってみませんか。

貴重なコレクションと共に 国技・相撲の足跡を辿る

相撲博物館

伝統と現在が
共存する墨田区の
カルチャー情報発信！



開館時間:10:00~16:30(最終入館16:00)
休館日:土曜・日曜・祝日(一部開館あり)、年末年始など
東京都墨田区横網1-3-28(国技館1階)
TEL:03-3622-0366
http://www.sumo.or.jp/sumo_museum/



催し物のご案内 秋期ふれあい体験教室

事前応募制教室

- 歌舞伎の化粧をしてみよう(大人向け)
11月8日(日) 時間/13:30~15:30
対象/高校生以上 定員/20名 応募締切/10月23日(金)
【場所/1階会議室】

※いずれも参加料無料 ※講師/ふれあいボランティア

お申し込み方法

往復はがきに住所・氏名(2名まで)・年齢・電話番号・希望講座名を明記の上、下記へ(締切日消印有効)
〒130-0015 墨田区横網1-4-1 江戸東京博物館 ボランティア事務局 ふれあい体験教室係



- 歴史散歩
「夏目漱石の『硝子戸の中』ゆかりの景観を訪ねて」
11月14日(土) 時間/13:00~16:00
※荒天時は11月21日(土)に順延
対象/一般 定員/20名 応募締切/10月30日(金)



当日受付教室

- 神無月茶席
10月3日(土)
時間/①13:00~13:30
②13:45~14:15
③14:30~15:00
(整理券配布12:00~会場前)
対象/一般
定員/各回15名
【場所/1階会議室】
- 反古紙で折る小物
—江戸のエコロジーを
見習おう—
10月3日(土)、12月5日(土)
時間/各日13:00~15:30
(受付終了15:00)
対象/小学生以上
- 歌舞伎の鳴り物を
ならしてみよう
10月17日(土)
時間/①12:00~12:30
②14:00~14:30
対象/幼児〜一般
※各回とも時間内にお越しください。
- 藍色のハンカチで
クリスマスミニリースをつくらう
11月7日(土) 時間/①13:00~13:30 ②13:45~14:15
(整理券配布12:50~会場前)
対象/小学生以上 定員/各回25名(1家族2つまで)
- 万華鏡で遊ぼう
11月28日(土)
時間/10:30~12:00
(受付終了11:30)
対象/小3以上 定員/15名
- 師走茶席
12月5日(土)
時間/①13:00~13:30
②13:45~14:15
③14:30~15:00
(整理券配布12:00~会場前)
対象/一般 定員/各回15名
【場所/1階会議室】
- 和算パズル
10月3日(土)、12月5日(土)
時間/各日13:00~15:30
(受付終了15:00)
対象/小4以上
- おりがみで遊ぼう
10月4日(日)
時間/13:00~15:00
対象/5歳以上
- ときめきキノコ体験
10月10日(土)
時間/10:30~12:00
(受付終了11:30)
対象/3歳以上 定員/20名
- ぼち袋を摺らう
11月28日(土)
時間/13:00~15:00
対象/小学生以上
定員/先着30名
【場所/3階江戸東京ひろば 北側休憩所】

※いずれも参加料無料(常設展示室内で開催の教室は観覧券が必要) ※場所の表記がない場合、常設展示室5階ミュージアム・ラボで開催。
※講師/ふれあいボランティア ※3階江戸東京ひろばで開催の教室は、荒天などによるひろば閉鎖時は中止となります。

ミュージアムトーク

江戸の商業

10月2日、9日

町の暮らし

10月16日、23日

市民文化と娯楽

10月30日、11月6日

企画展

「市民からのおくりもの2015」みどころ

11月13日、20日

江戸の四季と盛り場

11月27日、12月4日

芝居と遊里

12月11日、18日

日時/毎週金曜日 16:00から
常設展示室5階の日本橋下までお集り
ください。所要時間は約30分です。

表紙解説

歌川芳藤「開化旧弊興廃くらべ」(部分)(浮世絵VS.写真)
錦絵3枚続 1882年(明治15) 資料番号:94202801~3

江戸時代の事物と明治になって登場した新しい事物が、互いに争う様子を描いた錦絵の一部。画中のセリフで、錦絵は美しさを、写真は本物そっくりであることを主張しています。当時の、容貌だけが妙にリアルな肖像画や、素朴に彩色されたモノクロ写真をみると、セリフでわかるそれぞれの弱点を、双方が必死に克服する努力をしていたことがわかります。(我妻)



江戸東京博物館 NEWS Vol. 91

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表) ホームページ <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分、東口から徒歩7分
都営地下鉄大江戸線「両国(江戸東京博物館前)駅」A3・A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2015年(平成27)9月25日(金)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
印刷・制作 株式会社D_CODE

※無断転載を禁じます。※展示・催し物の日程・内容などは変更することがあります。